

図書館
★へいこうう!

新着本のご案内

【一般書】
 ▼インビクタス(ジョン・カ
 リン)▼ブラッド・メリデ
 イアン▼シャーロック・ホ
 ームズの大冒険 下(マイ
 ク・アシュレイ)▼元禄百妖
 箱(田中啓文)▼吉祥寺の朝
 日奈くん(中田永一)▼お
 い!キノ会長(柴村仁)▼花
 嫁たちの深夜会議(赤川次
 郎)▼三毛猫ホームズの用
 心棒(赤川次郎)▼世界は俺
 が回してる(なかにし礼)▼
 十字架(重松清)▼水死(大
 江健三郎)▼きままな娘わ
 がままな娘(藤堂志津子)▼
 欧亜純白(ユラシアホワ
 イト)1・2(大沢在昌)▼つ
 くも神さん、お茶ください
 (畠中恵)▼抱擁(辻原登)▼
 夜明けの橋(北重人)▼まね
 き通り十二景(山本一力)▼
 あたしはビー玉(山崎ナオ
 コーラ)▼私のこと、好きだ
 った?(林真理子)▼おぼろ
 月(谷村志穂)▼赤報隊始末
 (東郷隆)▼火の闇(北重人)
 ▼愛するものたちへ、別れ
 のとき(エドウィー・ジ・ダン
 ティカ)▼告白的恋愛論(渡
 辺淳一)

☆毎週土曜日
14時00分～
おはなしかい開催

本一話の『殺気』
 (雫井脩介/著)
 大学生のましろは12歳のとき、何
 かに拉致監禁された経験がある
 た。そのために、まる特異能力が
 「殺気」を感じる不思議な能力を
 持った。ましろの記者は、彼女の
 過去を調べ始めるが...

【児童書】
 ▼妖精の家具、おつくりし
 ます。(あんびるやすこ)▼
 ティンカー・ベルと月の石
 (エヴァン・スピリットプロ
 ス)▼ラプンツェル(グリ
 ム)▼犬の目(桂米平)▼な
 ぞなぞうさぎのふしぎなと
 びら(やえがしなおこ)▼ク
 リスタルエッジ(風野潮)▼
 じぶんの木(松成真理子)▼
 こりすのはつなめ(柿本幸
 造)

読み聞かせボランティア募集中! 興味のある方は図書館までご連絡ください。

病院だより

古くて新しい?

ワクチンとは
院長 山下 晃史

新型インフルエンザ流行で
 のワクチン不足騒動、子宮頸
 癌の予防できるワクチンの発
 売などで、にわかに注目を浴
 びたワクチンについてお話し
 ます。

ワクチンとは、毒性を無く
 したか、あるいは弱めた病原
 体(細菌やウイルスなど)か
 ら作った物質を、体内に注入
 することで抗体というものを
 作り、免疫力を増強し、以後
 その病気にかかりにくくする
 医薬品の総称です。

1796年に、牛痘にかか
 った人が天然痘にかかりにく
 いことを発見し、天然痘のワ
 クチンを作ったエドワード・
 ジェンナーのお話は皆さんも
 聞いたことがあるのではない
 でしょうか。その後ルイ・パ
 スツールが理論的裏付けを与
 え、200年以上も前からワ
 クチンの歴史は始まっている
 のです。

しかしながら、その後の感
 染症に対する医学は、ワクチ
 ン開発よりも病原体を殺傷す
 る物質の開発に力を入れてき
 ました。それは、ワクチンで
 は100%に近い予防は困難
 で、かかってしまった場合の
 治療はできないからです。病
 原体も絶滅を避けるため常に
 進化を続けており、最近では

新しい医薬品が開発されて
 も、それがすぐに効かなくな
 ることが多くなっています。
 新型インフルエンザでも、報
 道されているように、タミフ
 ルが効かないウイルスが出て
 きています。このまま病原体
 と人間との戦闘状態が続け
 ば、ある日突然、とてつもの
 凶悪な病原体が出現するの
 ではと危惧されます。



ワクチンは、病原体に罹患
 しないようにすることで、結
 果的に病原体が絶滅すること
 はありますが、病原体を直接
 殺傷しようとするものではあ
 りません。したがって、病原
 体の著しい進化をスローダウ
 ンできるかもしれません。

この10年くらいの間にずい
 ぶんいろいろなワクチンが開
 発されてきています。日本で
 は認可されていないものも多
 く残念なのですが、海外を中
 心に医薬品メーカーもワクチ
 ン開発には力を入れています。
 ようやく日本では一昨年に
 小児の髄膜炎予防のアクトヒ
 プというワクチン、昨年には

子宮頸癌予防のサーバリック
 スというワクチンが使えるよ
 うになりました。

アクトヒブはインフルエン
 ザ菌b型に対するワクチンで
 す。乳幼児の重症髄膜炎の原
 因菌のかなりの部分を占める
 インフルエンザ菌の予防の切
 り札とされています。導入さ
 れた国では、この菌の髄膜炎
 はほぼ消失しています。生後
 2か月から4回に分けて接種
 します。

サーバリックスは、子宮頸
 癌の原因とされるヒトパピロ
 ーマウイルス16と18型を予防
 するワクチンです。子宮頸癌
 の予防に大いに貢献できると
 期待されており、10歳以
 上の女性に、1か月後と6か
 月後の計3回接種することに
 なっています。

さらにC型肝炎のワクチン
 などが開発中です。
 これからの感染症対策はワ
 クチンが主流になっていくか
 もしれません。ワクチンの保
 険適用や公費負担が望まれま
 す。

